

先の7月27日(木)28日(金)の両日、梅田のグランフロント大阪コングレションセンターで開催。約4,400人の来場者で賑わった。JASAパビリオン近畿ゾーンに出展した会員企業から出展成果や感想を紹介する。

イーエルシステム株式会社

代表取締役社長 安藤 亘氏

ブースでは新製品の展示を行い、来場者・出展社から販売先、利用方法などの様々な意見をいただく事ができ、マーケティングのいい機会になった。また具体的に案件化、協業の可能性あるリードを獲得できた。このような展示会では顧客、パートナーや会員企業と効率よく面談、情報交換ができる機会となるのがメリットだと感じた。

JASA近畿支部ゾーンは費用が抑えられるもののブースが小さいため、展示できる製品・サービスは1点に限られてしまう。複数の製品やサービスを展示するには通常ブースの方が利用しやすい。また説明・商談する場合も通常ブースの方が対応がしやすいため、用途に合わせて選択する必要がある。

展示会場の入口、出口が一方通行となっていたため、開場や基調講演終了後の来場者が出口付近まで流れてくるのにかなりの時間がかかってしまうため、出口付近では接客までに時間がかかる事と、来場者のモチベーションに影響がある点は今後検討が必要。

株式会社Bee 代表取締役 塩路 直大氏

EdgeTech+ West 2023に出展した経緯は、西日本で催される組込み展示会ということで、なるべく出展するようにしています。今回の展示会は本格的にコロナが明けてからの初のET展ということもあり、大変期待していましたが当社の成果としてはこれまでで最低のものとなりました。

当社の出展内容について問題があるのも明らかですが、それ以外の原因として考えられるのがJASAパビリオン全体の狭苦しさで

株式会社ルナネクスス 総務部 営業本部 原野 未帆氏

この度は出展させていただきありがとうございます。

EdgeTech+へは初出展でしたが、JASA近畿ブースがあることで出展へのハードルが下がり、有難かったです。また、近くのJASA関係者の方とご挨拶や、紹介し合うことで横の繋がりが出来、楽しく2日間を終えることができました。展示会の参加が初めての社員も、序盤に近隣の関係者の方へ展示品を紹介させていただくことで緊張も解け、その後自信をもって説明することができていました。近

スキルシステムズ株式会社

開発第2本部 (AI開発担当)

マネージャ 横田 祐介氏

各分野の方からAIに寄せられる期待を実感でき非常に有意義でした。「細胞画像レベルまでの分類に特化したAI技術と少ない画像データを自己増殖させる生成AI技術」をテーマにこの技術を活用して共創頂ける企業様にPRすべく今回出展に至りました。

希少ガンである成人T細胞白血病(ATL)を発見する画像AI技術を開発中です。ATL診断時には、1症例数百枚の血液画像を目視検査するが、検査者負担が大きく、判断結果が分かれる等課題に対して、少ない画像データを自己増殖させる技術と自然言語処理向け深層学習モデルを高度化して、血液画像からATLを早期発見する弊社独自AIモデル技術を確認したこと、またAI開発人材や設備について全て弊社内で完結している点に多くの興味をいただきました。

これらAI技術は、製造業様での少ない不良品という類似課題を解決する商談にもつながりました。現在はchat型生成AIの開発などにも取り組み、来年もPRできるように取り組んでいます。

株式会社たけびし

システムエンジニアリング部

部長 竹内 龍二氏

近畿JASAブースを訪れたお客様がついでに隣のブース(当社)の話も聞いて頂け、また、JASAパビリオンでの来場者情報(名刺)も共有頂けたので、費用対効果/シナジー効果は高いと感ずる。JASAメンバー企業の社員同士が交流する場にもなり、それぞれの企業が取り組むテーマや商材、技術等を相互に触れることができ、今後のビジネス展開を考える上での参考になった。ただ、EdgeTech+全体の来場者は多いとは言えず、今回のような人気講師による生成AIの講演や何らかのイベント併設等を企画して、展示会全体で集客をもっと高める必要があると思います。

各ブースの間隔があまりにも狭く、説明が立つと除けて歩かないとまわれないほどでした。これはJASAパビリオン内に来場者を呼び込む為の仕様になっていないと感じました。

JASAとして出展社を多く集めることは大事なことです。来場者が見易いブース仕様にすることはそれ以上に重要であり、来場者ファーストであることで、良い展示会に繋がり更なる出展社増に繋がるのではないかと考えます。このあたりを次回以降の改善点としていただけたらと思います。

隣ブースの方々にもお礼申し上げます。

弊社は「教育用マイコン評価ボード」をメインに出展いたしました。成果としてはまだ目に見えたものはありませんが、来場者の興味を引くワード、ニーズを直接感じることができ、次の開発に繋げることができています。

限られたスペースでどう人員配置し、どうアピールするかは課題として残っていますが、また次回も出展できるよう、技術力を磨いていきます!